すべての企業を世界につなぐ言葉のコンシェルジュ

2016年2月

株式会社翻訳センター（ジャスダック　証券コード：2483）
代表取締役社長　東　郁男

Copyright Honyaku Center Inc. All Rights Reserved.

■ご挨拶

本日は、お忙しい折、弊社説明会に足をお運びいただき、誠にありがとうございます。
私は代表取締役社長の東　郁男（ひがしいくお）と申します。

本日は大勢の皆様にお集まりいただき、心より感謝しております。
今日、私がここに立つ目的は

①当社名「翻訳センター」と証券コード（２４８３）を覚えていただくこと
②産業翻訳・通訳ビジネスの概要といかに有望なビジネスであるかという点を
　当社グループの説明を通じてご理解いただくこと

この２点です。
全体の持ち時間50分のうち、私からは40分ほどご説明させていただき、
残りの時間で皆さんからのご質問に応えたいと考えています。
それでは、始めさせていただきます。

Ⅰ.翻訳センターとは

Copyright Honyaku Center Inc. All Rights Reserved.

HONYAKU CENTER
New Standards in Translation

■翻訳センターとは

この章では、翻訳センターグループの会社概要、それぞれの事業内容について
ご説明いたします。

1．会社概要

■会社名	株式会社 翻訳センター
■代表者	東　郁男
■本社所在地	大阪府大阪市中央区久太郎町4丁目1番3号
■設立	1986年4月
■資本金	5億8,844万3千円（2015年3月末現在）
■連結売上高	91億9,126万円（2015年3月末現在）
■事 業 所	【国内】大阪、東京、名古屋、福岡（営業所） 【海外】サンフランシスコ、ニューヨーク（営業所）、北京
■連結従業員数	412人（2016年9月末現在）
■関係会社 ［事業内容］	（株）アイ・エス・エス［通訳、人材派遣、コンベンション］ （株）アイ・エス・エス・インスティテュート［通訳者・翻訳者育成］ （株）外国出願支援サービス［海外への特許出願支援］ （株）国際事務センター［翻訳］ （株）パナシア　［メディカルライティング］ ランゲージワン（株）　［多言語コンタクトセンター］

Copyright Honyaku Center Inc. All Rights Reserved.

HONYAKU CENTER
New Standards in Translation

■会社概要

翻訳センターグループは、1986年に「くすりの街」といわれる大阪・道修町にて医薬専門の翻訳会社として設立以来、産業技術翻訳を通し、国際的な経済・文化交流に貢献している企業でございます。現在では翻訳業界で最初の上場企業、かつ、業界最大手として、業界を牽引しております。

2006年の上場時は社名の通り『翻訳だけ』を扱っている企業でしたが、2012年に通訳事業を中心に展開するアイ・エス・エスをグループ化したことで、現在では、言葉（外国語）に関するさまざまな事業を展開している『外国語ビジネスの総合サプライヤー』に成長しつつあります。

【主要な営業拠点】
国内は、大阪本社、東京、名古屋、福岡の４拠点に、
海外は、アメリカ・サンフランシスコとニューヨーク、中国・北京に
グループ会社があります。

2．世界の語学サービス会社ランキング2015

3

当社グループは、4年連続でアジアで1位にランクイン

順位	会社名	所在国	特徴
1	Lionbridge Technologies	US	MLV（マルチ・ランゲージ・ベンダー）
2	TransPerfect / Translations.com	US	取扱分野が当社と類似
3	HP ACG	FR	ヒューレッドパッカードの語学サービス部門
4	LanguageLine Solutions	US	
5	SDL	UK	翻訳支援ツール「Trados」発売元
6	STAR Group	CH	MLV（マルチ・ランゲージ・ベンダー）
7	RWS Group	UK	特許調査会社
8	euroscript International S.A.	LU	
9	Welocalize, Inc.	US	MLV（マルチ・ランゲージ・ベンダー）
10	Moravia	CZ	
11	CyraCom International Limited	US	医療系に特化した通訳会社
12	Hogarth Worldwide Ltd	UK	広告制作会社
13	CLS Communication	CH	
14	**Honyaku Center Inc.**	**JP**	**翻訳、通訳、派遣、コンベンション、通訳者・翻訳者教育など外国語サービスの総合プロバイダー**

＊色つきセルは上場企業

（出典：Common Sence Advisory 「The Top 100 Language Service Providers in 2015」）

Copyright Honyaku Center Inc. All Rights Reserved.

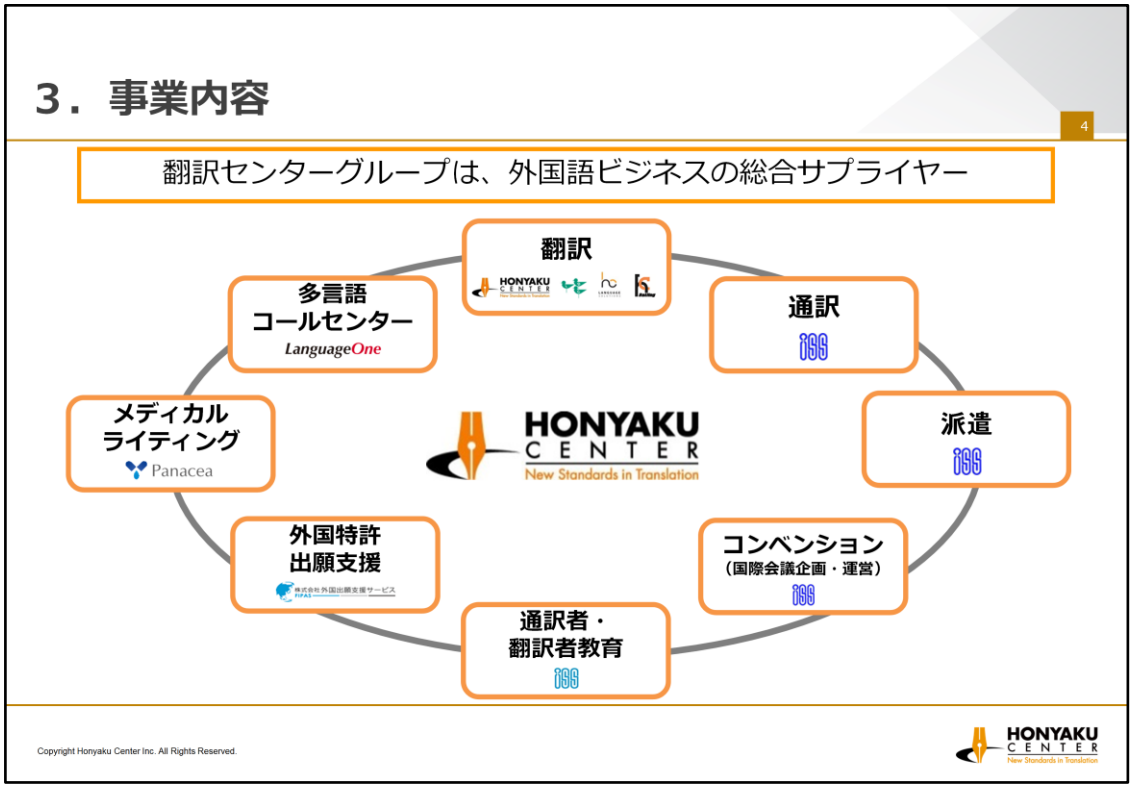
HONYAKU CENTER New Standards in Translation

■世界の語学サービス会社ランキング２０１５

昨年7月に発表になったアメリカの調査会社による世界の語学サービス会社の
売上高ランキングにおいて、当社グループは4年連続でアジアで１位に
ランクインされました。

世界ランキングは２０１２年から３年連続で１２位でしたが、
２０１５年の当社グループのランキングは１４位と２つランクが下がっています。

ですが、このランキングは米ドルベースで作られていることから、
トップ１０まであと少し、という当社グループの立ち位置は、
実質的には変わっていないものと認識しています。



■事業内容

それではここで、当社グループの事業内容をご説明いたします。

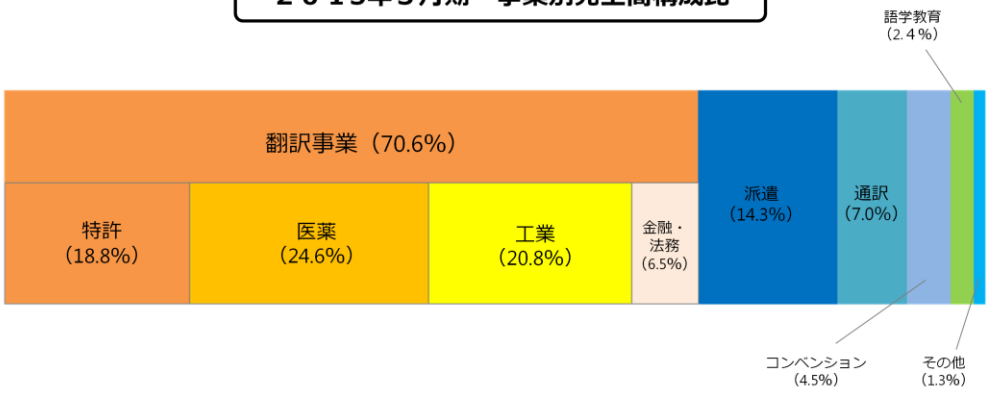
「翻訳事業」は翻訳センターと複数の子会社を中心に事業を展開しています。
「通訳事業」、「派遣事業」、「コンベンション事業（国際会議企画・運営）」は
アイ・エス・エスが、「通訳者・翻訳者育成事業」はアイ・エス・エス・
インスティテュートが事業を展開しています。

これらに加えて、翻訳事業の高付加価値サービスの一環として、海外での特許取得を
トータルサポートする「外国特許出願支援事業」、医薬品の申請資料の作成を行う
「メディカルライティング事業」を子会社が展開しています。さらに、昨年4月には
合弁で多言語コールセンター（電話通訳）専門の会社を設立しております。

当社グループは、外国語ビジネスの総合サプライヤーとして、
商品のラインナップ拡大に努めています。

４．事業別売上高構成比

２０１５年３月期　事業別売上高構成比



■ 連結売上高９１億の約７０％（約６５億）は翻訳事業が占める

Copyright Honyaku Center Inc. All Rights Reserved.

■事業別売上高構成比

では、各事業の売上規模はどれくらいでしょうか。
こちらは、前期（2015年3月期）の事業別の売上高構成比率を表したグラフです。

翻訳事業は連結売上高の約70%（約６５億）を占めており、
特許、医薬、工業（・ローカライゼーション）、金融・法務の４つの専門分野に
特化して展開しています。

派遣事業、通訳事業、コンベンション事業、語学教育事業は前のページでも
ご紹介した通り、アイ・エス・エスが主体となって事業を展開しており、
足元で最も勢いのがあるのはコンベンション事業です。

Ⅱ.翻訳・通訳ビジネスとは

Copyright Honyaku Center Inc. All Rights Reserved.

HONYAKU CENTER
New Standards in Translation

■翻訳・通訳ビジネスとは

この章では、翻訳・通訳ビジネスの種類と
当社グループが手掛ける領域、市場規模や今後の翻訳・通訳ニーズ、
当社グループの置かれている状況について、ご説明いたします。

■翻訳ビジネスの種類

翻訳ビジネスは、「出版翻訳」・「映像翻訳」・「産業翻訳」の大きく３つに分けることができます。

皆さんにとっては、海外の文芸作品に代表される「出版翻訳」や、映画や海外ニュースの字幕などに代表される「映像翻訳」に触れる機会が多く身近に感じると思いますが、当社グループが扱う「産業翻訳」はひとくくりでいうと、企業や官公庁等で発生する技術文書・ビジネス文書の翻訳を指します。

■翻訳ビジネスの種類

企業や官公庁等で発生する技術文書・ビジネス文書＝「産業翻訳」と説明しましたが、実際にはどういった文書を翻訳しているのでしょうか。

「産業翻訳」での代表的な製品や資料名を表したのがこちらの画面です。

皆様もデジタル機器を購入した際に、複数言語で書かれている取扱説明書を一度はご覧になったことがあるかと思います。昨今、デジタル機器の多くは海外で生産されておりますが、生産工場での機械の仕様書や現地従業員向けの作業マニュアル、現地会社で使う規程類などの人事労務資料など、「産業翻訳」ではビジネスに関連する非常に幅広い資料を取り扱います。

このスライドで示している文書の種類は一例ですが、当社グループは誰でもご存知の世界的大企業から個人事業主、一般個人まで約4,000のお客様との取引を通して、お客様の事業展開を支えており、「産業翻訳」はグローバル展開に欠かせない要素（ツール）であると言えます。

■通訳ビジネスの種類

次に、通訳ビジネスについてご説明します。通訳ビジネスはご覧の６つに大別できます。当社グループではこれらのうち、主に「会議・ビジネス通訳」とコールセンターを介した「コミュニティ通訳」を展開しています。

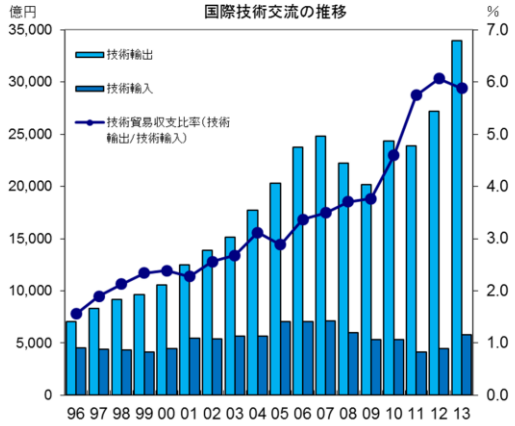
「会議・ビジネス通訳」とは文字通り、会議やビジネスの場における通訳を指し、代表的な手法として、発言を聞きながら同時進行で通訳する『同時通訳』、発言をある程度まとめて通訳する『逐次通訳』、通訳者が人のそばについて耳元で同時通訳をする『ウィスパリング』があります。通訳言語は英語が中心です。当社グループにおいて「会議・ビジネス通訳」はアイ・エス・エスがサービスを提供しています。

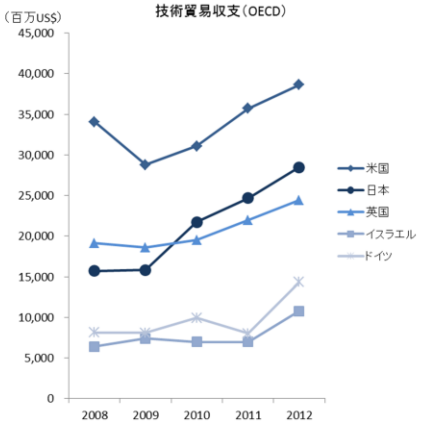
「コミュニティ通訳」とは、在留外国人の生活・暮らしを行政・福祉の面でサポートする通訳を指し、代表的な例として、医療通訳、行政通訳があります。通訳言語は英語に限らず、中国語、韓国語、スペイン語、ポルトガル語も多く発生します。これは日本に在留する外国人の国籍にも関係しています。当社グループにおいて「コミュニティ通訳」はランゲージワンがコミュニティ通訳を希望する企業・自治体を介し、電話通訳という方法でサービスを提供しています。

4．翻訳・通訳ニーズの拡大

10

企業のグローバル化が加速し、技術輸出は過去最高を更新





注）'01年度に対象範囲を拡大している。
出所：総務省「科学技術研究調査報告」（'14年）

Copyright Honyaku Center Inc. All Rights Reserved.

HONYAKU CENTER New Standards in Translation

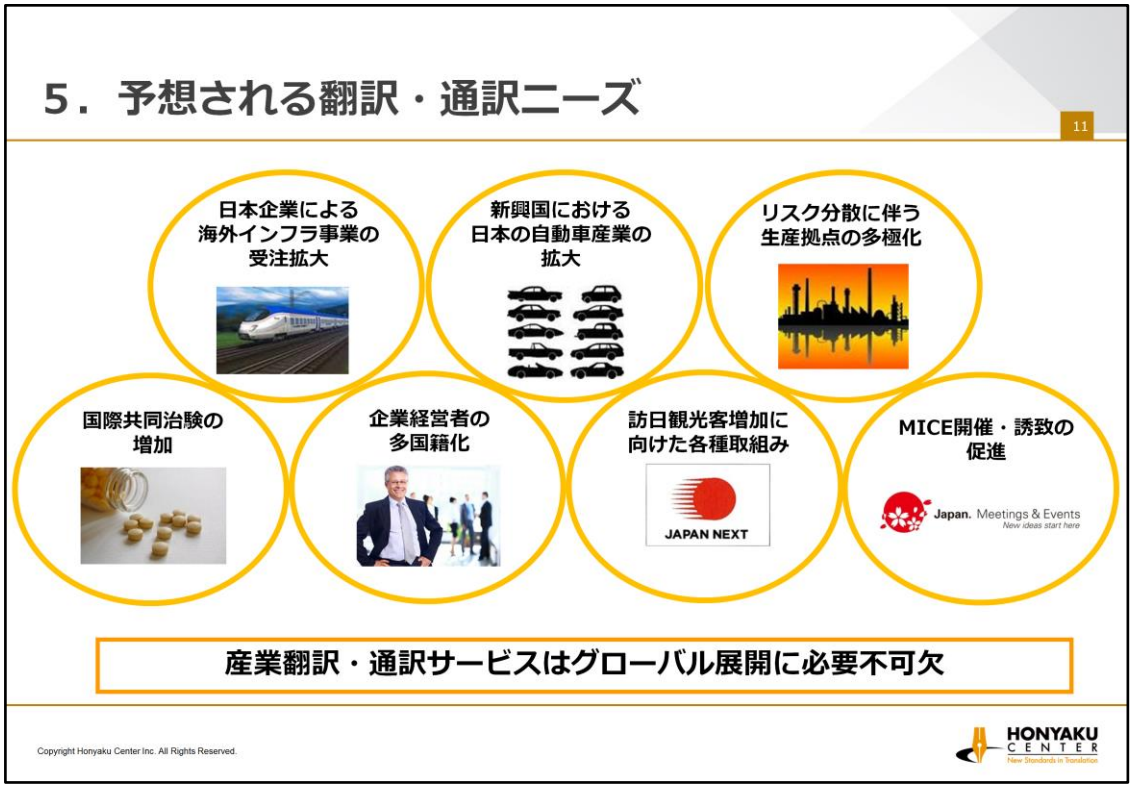
■翻訳・通訳ニーズの拡大

ここからは市場の動向についてご説明いたします。
こちらのグラフは、総務省発表の国際技術交流の推移と技術貿易収支（OECD）です。

左側のグラフ、水色の「技術輸出」の推移をご覧ください。
2008年のリーマンショックの後に一時鈍化していますが、その後は回復し、
2013年には過去最高となっています。輸出技術の内訳をみると、自動車、医薬品、
情報通信機器が上位３位を占めています。これらを当社グループの事業に当てはめると、
翻訳事業の工業・ローカライゼーション分野と医薬分野の専門領域にあたります。
また、右側のグラフも同様に、リーマンショック後から右肩あがりで順調に
推移しています。

今回は「技術輸出」に焦点を当ててご説明していますが、翻訳・通訳ビジネスは
日本企業の海外展開（輸出）だけでなく、海外企業の日本参入（輸入）のどちらにも
ビジネスチャンスとなります。つまり、海外に出ていく動き、海外から入ってくる動き、
いずれの動きにおいても翻訳・通訳は必要不可欠なサービスであります。

したがって、国際技術交流が活発になればなるほど、翻訳・通訳ニーズは拡大すると
認識しています。

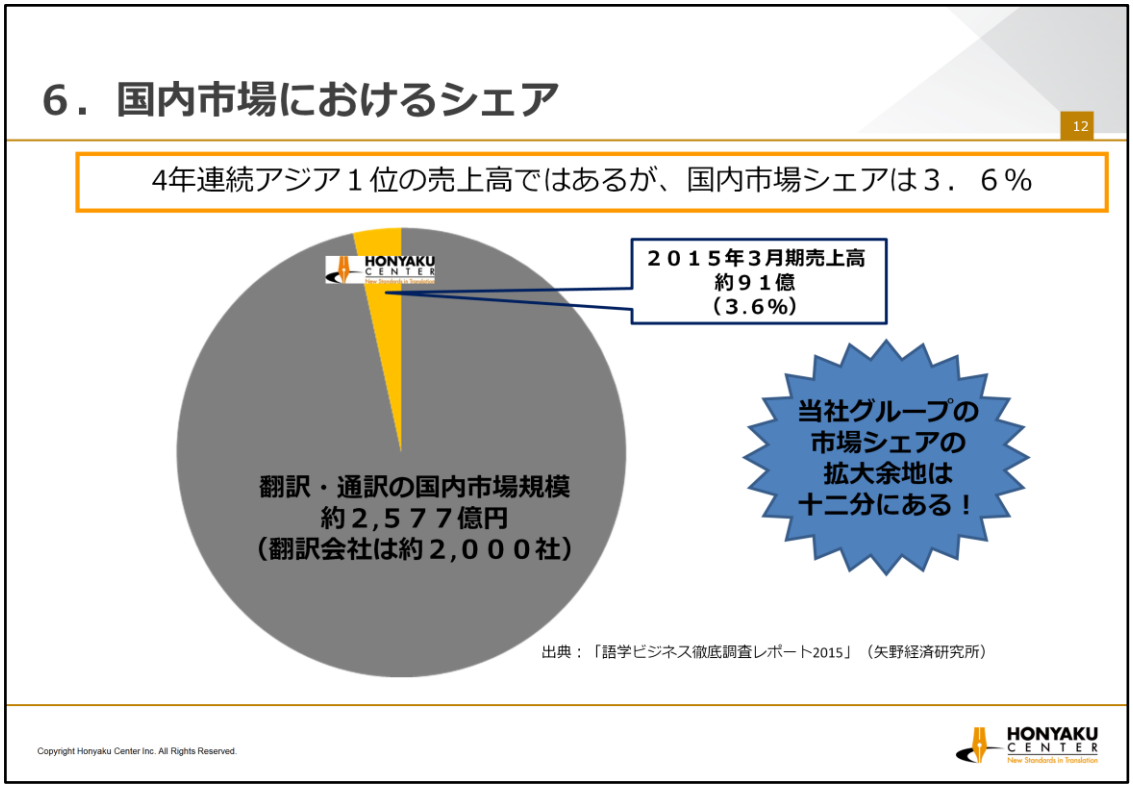


■将来の翻訳・通訳ニーズ

前のページでは足元にある翻訳・通訳ニーズについてご説明しましたが、
将来の翻訳・通訳ニーズにつながるテーマとして、他にもいくつか挙げられます。

◆日本企業による現地インフラ事業の受注拡大：高速鉄道、生活インフラ
（2020年までに電力・水・鉄道・医療のインフラ受注30兆円が目標）
◆新興国における日本の自動車産業の拡大
（数年前から、中南米への進出ニーズが加速）
◆リスク分散に伴う生産拠点の多極化
（2011年タイ洪水で自動車生産工場が一斉に操業停止）
◆国際共同治験の増加
（欧米企業との共同治験だけでなくアジア企業との治験も増加傾向）
◆企業経営者の多国籍化
（経営のグローバル化により外国人役員を導入する企業が増加）
◆訪日観光客増加に向けた各種取組み
（ビジット・ジャパン事業の促進、2020年までに訪日観光客2,000万人が目標）
◆MICE（マイス）の開催・誘致の促進
（MICEとは、会議（Meeting）、研修旅行（Incentive Travel）、国際会議（Convention）、展示会・見本市（Exhibition/Event）の頭文字による造語。多くの集客・交流が見込まれるビジネスイベントの総称。観光庁が日本のプレゼンス向上を目的に誘致活動に熱心）

これらに加えて、2020年に東京でオリンピックが開催されることは、言葉のインフラ整備の絶好の機会であり、翻訳・通訳業界においては強力な追い風になるでしょう。



■国内市場におけるシェア

ここで、国内の翻訳・通訳市場における当社グループのシェアを確認しておきましょう。

第１章で、当社グループの売上高は４年連続でアジア１位とご説明しました。
翻訳・通訳の2015年の市場規模 約２，５７７億円に対し、当社グループの
前期売上高（約９１億円）の市場シェアはわずか３．６％と非常に小さい状況です。

これは何を意味するのでしょうか。
理由に業界特性が挙げられます。というのも、翻訳・通訳業界は多くの小規模事業者から成る業界であるからです。日本国内に翻訳会社は約２，０００社あると言われていますが、１０億以上の年商をあげている翻訳会社はそうありません。
通訳業界となると、その規模感はさらに小さくなります。非常に小さい単位で事業展開している企業の集合体＝翻訳・通訳業界といえます。

このシェアの低さを逆に捉えると、市場シェアの拡大余地は十二分にあるともいえます。

7．ここまでのまとめ

13

翻訳センターグループは

国内最大手、翻訳業界で最初の上場企業

売上高は４年連続でアジアNo.１

外国語サービスの総合サプライヤー

翻訳・通訳サービスの今後の見通しは

一部は国策と連動しており、需要は拡大傾向

Copyright Honyaku Center Inc. All Rights Reserved.

HONYAKU CENTER New Standards in Translation

■ここまでのまとめ

ここで一度、ご説明した内容をまとめておきます。

翻訳センターグループは

・国内最大手、かつ、翻訳業界で最初の上場企業です
・売上高は４年連続でアジア１位です
・翻訳以外にも、通訳、派遣、コンベンション、通訳者・翻訳者の育成事業、多言語の電話通訳などを展開している外国語ビジネスの総合サプライヤーです

また、翻訳・通訳の今後の見通しは、

・常に企業のグローバル展開には必要不可欠であるビジネスで
・日本政府の国策に絡んだ需要増が期待できます。

これらを頭に留めていただき、次の章では、今後の当社グループの経営戦略についてご説明いたします。

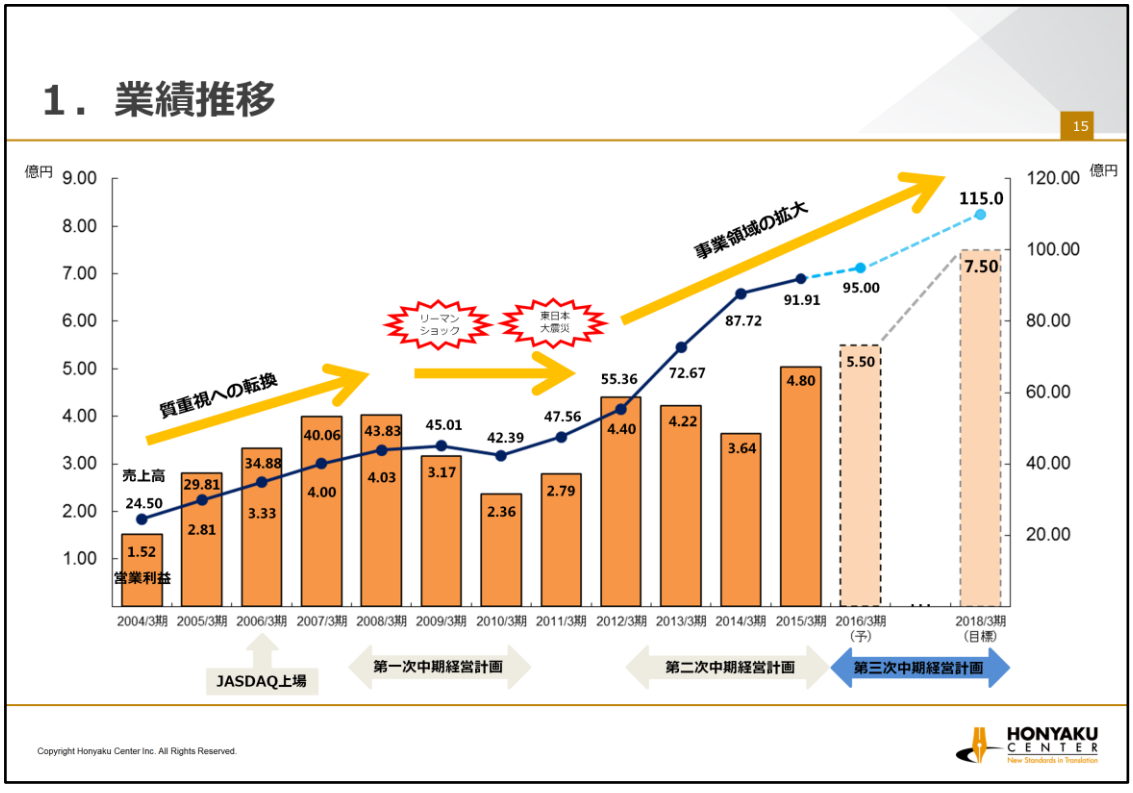
Ⅲ．今後の戦略

Copyright Honyaku Center Inc. All Rights Reserved.

HONYAKU CENTER
New Standards in Translation

■中期経営計画

この章では、翻訳センターグループの今後の経営戦略についてご説明いたします。



■業績推移

ご覧のグラフは、当社グループの売上高と営業利益の推移です。

国内最大手の翻訳会社として、2006年4月の株式公開を機に量的拡大重視から
品質重視に転換、基幹業務統合システム「SOLA」を導入するなどシステムによる
効率化を推進し、売上・利益を伸ばしてきました。

第一次中期経営計画期間中に翻訳支援ツール「HC TraTool」を導入、
第二次中期経営計画では事業領域の拡大を基本方針に掲げ、
2012年にアイ・エス・エスをグループ会社化しています。

そして、今期は第三次中期経営計画の初年度に当たります。ここで昨年5月に発表
いたしました当社グループの第三次中期経営計画についてご説明いたします。

2．第三次中期経営計画　経営ビジョンと基本方針

16

■経営ビジョン

すべての企業を世界につなぐ　言葉のコンシェルジュ

■基本方針

当社グループは、グローバル化に起因する
外国語ニーズの拡大に即応すべく、フルラインの
ランゲージサービスを展開し、各事業領域で
市場に対応する新たな価値を創造することによって、
お客様・社会と共に持続的な成長を目指します。

Copyright Honyaku Center Inc. All Rights Reserved.

HONYAKU CENTER New Standards in Translation

■経営ビジョンと基本方針

こちらが第三次中期経営計画の経営ビジョンと基本方針です。
経営ビジョン「すべての企業を世界につなぐ　言葉のコンシェルジュ」は
第二次中期経営計画時に策定したものを継続しています。

グローバル展開するお客様が直面している「言葉の壁」という課題を取り除くのが
私たち「言葉のコンシェルジュ」の使命だと考えます。

基本方針は「当社グループは、グローバル化に起因する外国語ニーズの拡大に即応すべく、フルラインのランゲージサービスを展開し、各事業領域で市場に対応する新たな価値を創造することによって、お客様・社会と共に持続的な成長を目指します。」です。

外国語ビジネスにおける総合サプライヤーとして各事業領域を伸ばしていくこと、
また、各事業領域でその市場のニーズに対応したサービスを展開していきたいと
考えています。

３．第三次中期経営計画　重点施策

■重点施策

（１）顧客満足度向上のための分野特化戦略のさらなる推進

- 専門特化の組織体制による高付加価値サービスの提供
- 分野・ドキュメント別の分化型マーケティング活動の実施

（２）ビジネスプロセスの最適化による生産性向上

- ICTの活用による業務フローの改善
- 人材の能力を最大限活用する多様で柔軟な働き方の推進

（３）ランゲージサービスにおけるグループシナジーの最大化

- 新規事業開発・サービス拡充による新たな市場の開拓
- 顧客ニーズに適応する戦略的グループシナジーの創出

Copyright Honyaku Center Inc. All Rights Reserved.

HONYAKU CENTER New Standards in Translation

■重点施策

第三次中期経営計画の重点施策はこちらの３点です。
最初の２つは翻訳事業における重点課題としております。

各重点施策については、次のページ以降でご説明していきます。

3．第三次中期経営計画　重点施策

18

（1）顧客満足度向上のための分野特化戦略の更なる推進

■専門特化の組織体制による高付加価値サービスの提供

分野 / エリア	特許	医薬	工業・ローカライゼーション	金融・法務
大阪	●	●	●	―
東京	●	●	●	●
名古屋	●	―	●	―

*旧・工業は3拠点で、マニュアルは大阪、東京で、ITは東京で展開

■ 地域別から分野別の組織に変更することで、顧客ニーズの多様化・高度化に対応

Copyright Honyaku Center Inc. All Rights Reserved.

HONYAKU CENTER New Standards in Translation

■重点施策　（1）顧客満足度向上のための分野特化戦略の更なる推進

重点施策の1点目、「顧客満足度向上のための分野特化戦略の更なる推進」についてご説明いたします。

昨年4月より、翻訳事業を従来の地域別から４つの専門分野に特化した専門別の組織体制に移行しました。

理由は3点あります。

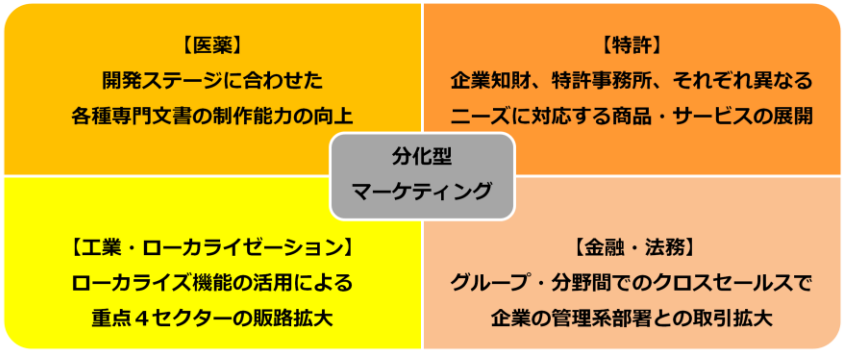
①多様化・高度化している顧客ニーズに対応し、他社との差別化を図るため
②拠点間の（制作面・営業面での）サービス品質のばらつきを解消する
③分野別の利益管理体制へとシフトさせ、拠点間での人材の流動化による効率化を図る

組織体制を変更して1年弱ですが、拠点間の情報交換や制作体制の共有化など、現場レベルの活動は活発になっています。この変化を通して、各分野の専門性をさらに高め、シェアアップを図りたいと考えています。

３．第三次中期経営計画　重点施策

（１）顧客満足度向上のための分野特化戦略の更なる推進

■分野・ドキュメント別の分化型マーケティング活動の実施



■ 分化型マーケティングの推進により、翻訳市場内でのシェア拡大を図る

Copyright Honyaku Center Inc. All Rights Reserved.

HONYAKU CENTER New Standards in Translation

■重点施策　（１）顧客満足度向上のための分野特化戦略の更なる推進

こちらのスライドでは翻訳事業の４分野の分化型マーケティングについて表しています。

医薬分野は、第二次中期経営計画で外資系大手の製薬会社を対象としたプリファードベンダー戦略（購買戦略の一種）が奏功し、新薬開発部署への拡販が進みました。この第二次中期経営計画の戦略をさらに発展させ、第三次中期経営計画では、顧客の新薬開発ステージで必要となる文書に合わせた組織体制に変更し、専門文書の制作能力を高めて、顧客内シェアを高めていきます。

特許分野は、企業の知的財産部署と特許事務所が主な顧客ですが、企業は品質の高い翻訳に加え、翻訳以外の商品（特許事務所に変わるサービス）を求め、特許事務所は単価と品質のバランスが取れたサービスを求める傾向に変化しつつあります。そこで、企業に対してはグループ会社である外国出願支援サービスが、特許事務所に対しては翻訳センターの特許営業部がそれぞれの長所を活かしてサービスを展開していきます。

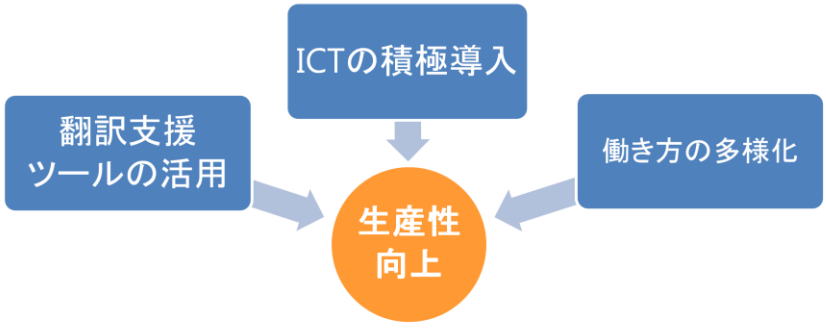
工業・ローカライゼーション分野は、４分野の中でも最も対象範囲の広い分野です。
幅広いセクターを対象する戦略と重点セクター（自動車、機械、情報通信、エネルギー）を設定する戦略との２つの戦略を同時並行で進めてきます。
また、重点セクターにはローカライゼーションがもつ高度な制作能力をアピールし、逆にローカライゼーションにおいては、工業の既存顧客への拡販を強化していきます。

金融・法務分野は、二次中計でスタートさせたコーポレート戦略（企業の管理系部署に拡販）を中心に、グループ・分野間でのクロスセールスを図っていきます。

3．第三次中期経営計画　重点施策

（2）ビジネスプロセスの最適化による生産性向上

■ICTの活用による業務フローの改善
■人材の能力を最大限活用する多様で柔軟な働き方の推進



■翻訳事業における専門性の高度化と生産性の向上を図る

Copyright Honyaku Center Inc. All Rights Reserved.

HONYAKU CENTER New Standards in Translation

■重点施策　（2）ビジネスプロセスの最適化による生産性向上

重点施策の２点目、「ビジネスプロセスの最適化による生産性向上」について
ご説明いたします。

第二次中期経営計画の反省点として、①制作強化のために販管費（人件費）が増加したこと、②翻訳することで社内に蓄積される情報資産の活用に着手できなかったことが挙げられます。

第三次中期経営計画では、この反省を踏まえた取り組みとして、3点を考えています。

・ICTの積極導入：基幹業務統合システムの改訂（昨年7月より稼働開始）
・翻訳支援ツールの活用：データベースの充実と活用
・働き方の多様化：従業員の在宅勤務制度の検討（専門性の高い人材の獲得・確保）

これらの取り組みによって、翻訳事業における専門性の高度化と生産性の向上を図り、着実に利益を上げられる企業へと変化していきたいと考えています。

3．第三次中期経営計画　重点施策

（3）ランゲージサービスにおけるグループシナジーの最大化

■新規事業開発・サービス拡充による新たな市場の開拓
■顧客ニーズに適応する戦略的グループシナジーの創出

■ 相互シナジーを推進し、グループ事業全体のさらなる成長を図る

Copyright Honyaku Center Inc. All Rights Reserved.

HONYAKU CENTER New Standards in Translation

■重点施策（3）ランゲージサービスにおけるグループシナジーの最大化

重点施策の3点目、「ランゲージサービスにおけるグループシナジーの最大化」についてご説明いたします。

当社グループは先ほどご説明した第二次中期経営計画時の事業領域の拡大により、現在では、外国語サービスの総合サプライヤーとしての体制を構築していますが、これで完成系というわけではありません。

新規事業の開発・商品ラインナップの拡充による新たな市場の開拓、事業間でのクロスセールスを図ることで各事業の強みを波及させていき、グループ事業全体のさらなる成長を図っていきたいと考えています。

４．第三次中期経営計画　業績目標

■業績目標

（単位：百万円）

	２０１５年３月期 実績
売上高	９,１９１
営業利益	５０４
当期純利益	２８３

（単位：百万円）

２０１８年３月期 目標
１１,０００
７５０
４５０

■経営指標

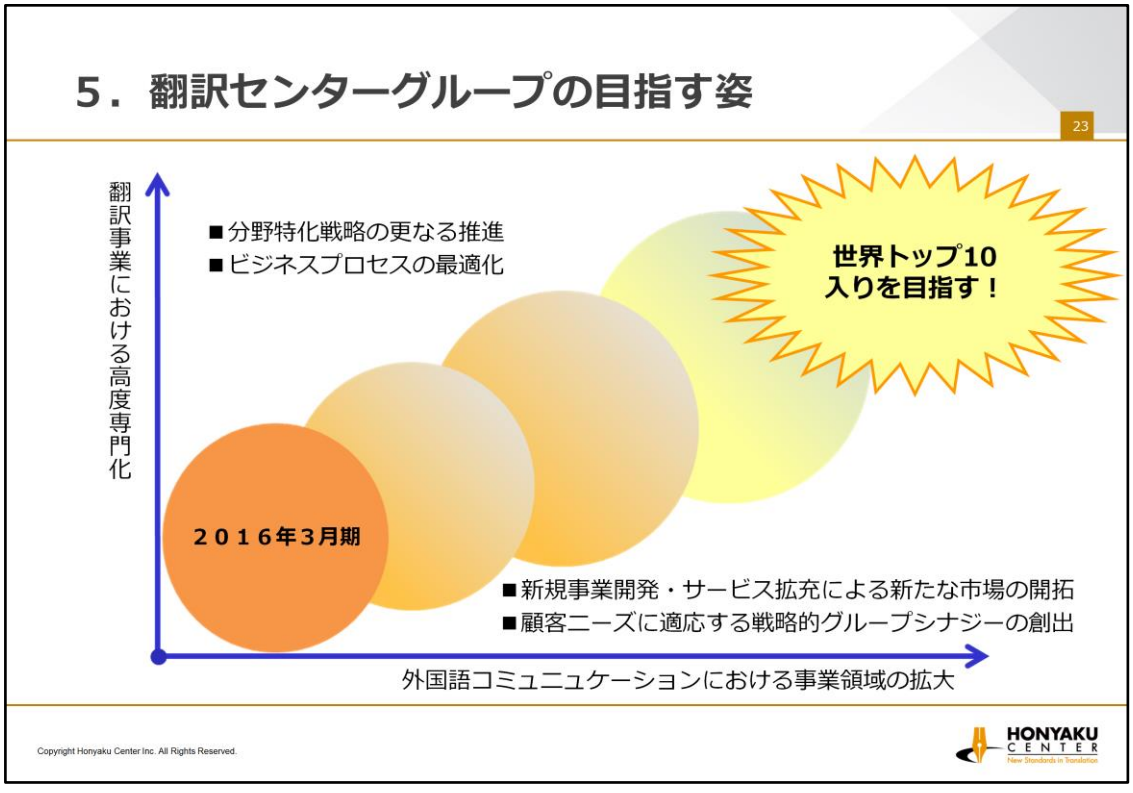
連結営業利益率	中長期的に８％を目指す
自己資本利益率（ＲＯＥ）	１０％以上を確保

Copyright Honyaku Center Inc. All Rights Reserved.

■ 第三次中期画経営計画　業績目標

ここまでご説明した経営戦略・重点施策に取り組むことによって、
業務の効率化と生産性向上を図り、着実に利益を上げられる企業へと
変化していきたいと考えています。

第三次中期経営計画の具体的な業績目標として、2018年3月期末の売上高110億円、
営業利益7億5000万円という業績目標と、連結営業利益率を中長期的に8%台にすること、
自己資本利益率(ROE）の10%以上確保を達成したいと考えています。



■翻訳センターグループの目指す姿

これまでのスライドで当社グループの戦略方針をご説明しましたが、
第三次中期経営計画の遂行を通して、翻訳事業における専門性の高度化（縦軸）と
外国語コミュニュケーションにおける事業領域の拡大（横軸）という、
両面での成長を加速させていきたいと考えています。

そして、将来的には言葉に関するサービス会社として世界ランキングトップ10入りを
目指します。

Ⅳ.業績予想と株主還元

Copyright Honyaku Center Inc. All Rights Reserved.

■業績予想と株主還元

最後の章となるこの章では、今期の業績見通しと株主還元についてご説明いたします。

１．２０１６年３月期業績予想と3Q業績

単位：百万円、%、円

	2015/3期	2016/3期（予）	伸率	2016/3期 3Q実績	伸率
売上高	9,191	9,500	3.3	6,723	0.8
営業利益	504	550	8.9	346	21.4
経常利益	502	550	9.4	343	19.2
親会社株主に帰属する四半期（当期）純利益	283	430	51.9	305	98.0
１株当たり四半期（当期）純利益	168.00	255.26	－	181.26	－
１株当たり配当額	48	53	－	－	－

※表中の百万円未満および小数点第二位は、全て切り捨てて表示しております。
※2016年3月期予想においては、US1ドル＝119円、中国1元＝19円で換算しております。
※2016年3月期3Q実績においては、US1ドル＝120.89 円、中国1元＝19.32円で換算しております。

■ 売上・利益の過去最高の更新を見込む

Copyright Honyaku Center Inc. All Rights Reserved.

HONYAKU CENTER New Standards in Translation

■2016年3月期　業績予想と3Q業績

ご覧のスライドは今期の業績予想と第3四半期の業績です。

前期に人材紹介子会社を売却したことで派遣事業の売上が減少しておりますが
翻訳事業が堅調に推移しているため売上は計画通り推移しております。
また、その子会社売却による販売管理費の減少で利益は前期比2ケタ増となっております。

通期では売上高を上回る利益の伸びを見込んでおり、
この数字がすべて達成できれば、過去最高の業績を更新する形となります。

２．２０１６年３月期　事業別売上高　予想

単位：百万円、%、円

	2015/3期	売上比	2016/3期（予）	増　減	伸　率	売上比
翻訳事業	6,493	70.6	6,970	477	7.3	73.4
特　許	1,730	18.8	1,760	29	1.6	18.5
医　薬	2,257	24.5	2,530	272	12.0	26.6
工業・ローカライゼーション	1,911	20.7	2,030	118	6.2	21.4
金融・法務	594	6.4	650	55	9.4	6.8
派遣事業	1,310	14.2	1,010	△300	△22.9	10.6
通訳事業	646	7.0	680	33	5.2	7.2
語学教育事業	214	2.3	200	△14	△6.9	2.1
コンベンション事業	410	4.4	430	19	4.7	4.5
その他	115	1.2	210	94	81.2	2.2
売上高合計	9,191	100.0	9,500	308	3.3	100.0

※表中の百万円未満および小数点第二位は、全て切り捨てて表示しております。

Copyright Honyaku Center Inc. All Rights Reserved.

HONYAKU CENTER New Standards in Translation

■２０１６年３月期　事業別売上高　予想

ご覧のスライドは今期の事業別売上高予想です。
翻訳事業は、医薬分野で２桁の伸びを予想しています。

また、派遣事業の今期予想がマイナス（△）となっていますが、これは前期末に人材紹介会社（ISSC）を売却した反動が要因です。

３．２０１６年3月期　損益計算書　予想

単位：百万円、%、円

	2015/3期	売上比	2016/3期（予）	増減	伸率	売上比
売上高	9,191	100.0	9,500	308	3.3	100.0
売上原価	5,090	55.3	5,360	269	5.2	56.4
売上総利益	4,100	44.6	4,140	39	0.9	43.6
販売費及び一般管理費	3,595	39.1	3,590	△5	△0.1	37.8
営業利益	504	5.4	550	45	8.9	5.8
営業外収益	6	0.0	－	△6	－	－
営業外費用	8	0.0	－	△8	－	－
経常利益	502	5.4	550	47	9.4	5.8
親会社株主に帰属する当期純利益	283	3.0	430	146	51.9	4.5

※表中の百万円未満および小数点第二位は、全て切り捨てて表示しております。

Copyright Honyaku Center Inc. All Rights Reserved.

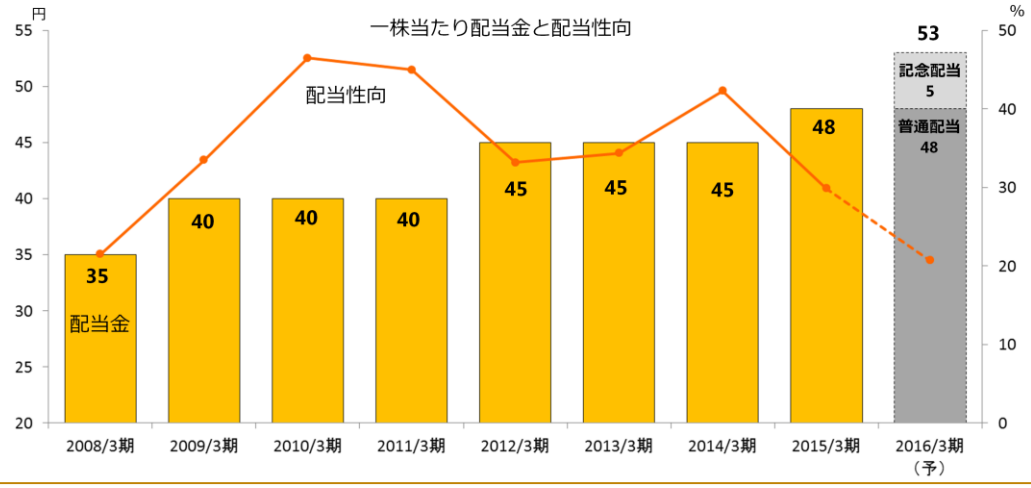
HONYAKU CENTER New Standards in Translation

■２０１６年３月期　損益計算書　予想

ご覧のスライドは今期の損益計算書の予想です。
粗利率の減少、販売管理費及び一般管理費の減少は、いずれも前のページでご説明した人材紹介会社（ISSC）の売却に起因しています。

4．株主還元

利益成長に応じた継続的な増配を志向



Copyright Honyaku Center Inc. All Rights Reserved.

■株主還元

こちらは配当金の推移を表したスライドになります。
当社は利益成長に応じた継続的な増配を志向しております。
このグラフをみてもわかるように、配当は毎期必ず実施しており、
これまでに減配や無配は行っておりません。

来期は普通配当48円と今年2016年が翻訳センターの創立30周年となることから、
それを記念した記念配当5円を足して、53円を予定しています。

配当性向について、期初は前期とほぼ同率（約30%）を予想しておりましたが、
昨年11月末に最終利益の上方修正を行ったため比率が下がっております。

５．最後にまとめ

29

翻訳センターグループは

国内最大手、翻訳業界で最初の上場企業

売上高は４年連続でアジアNo.１

翻訳・通訳サービスの市場環境は明らかな追い風

↓

利益成長に応じた継続的な増配をお約束します

Copyright Honyaku Center Inc. All Rights Reserved.

HONYAKU CENTER New Standards in Translation

■最後にまとめ

翻訳・通訳サービスは従来、製造業が海外に出ていくための支援が中心でしたが、
これからは、日本が真のグローバル化を図るための支援も加わってきます。
現に、企業の新興国展開の加速、各種経済連携協定の進行、政府のクールジャパン戦略、
2020年の東京でのオリンピック開催など、外国語サービスに関するさまざまなニーズ
が考えられ、市場環境は明らかに追い風にあると認識しております。

当社グループは国内翻訳業界において最大規模であるというポジションを
最大限に有効活用し、さらに飛躍していきたいと考えております。
そして、株主の皆様には利益成長に応じた継続的な増配をお約束いたします。

ぜひ、「すべての企業を世界につなぐ　言葉のコンシェルジュ」を目指している
私たち翻訳センターグループをどうぞご支援ください。

株式会社翻訳センター　経営企画室

TEL:03-6369-9963　E-mail:info@honyakuctrc.co.jp
URL：http://www.honyakuctr.com/

本資料は、業績に関する情報の提供を目的としたものであり、当社が発行する有価証券の投資を勧誘するものではありません。
本資料に掲載された意見や予測等は資料作成時点での当社の判断であり、その情報の正確性、完全性を保証し、または
約束するものではなく、また今後、予告なしに変更されることがあります。

Copyright Honyaku Center Inc. All Rights Reserved.

HONYAKU CENTER
New Standards in Translation

参考資料

Copyright Honyaku Center Inc. All Rights Reserved.

1．事業セグメントおよびグループ会社　一覧

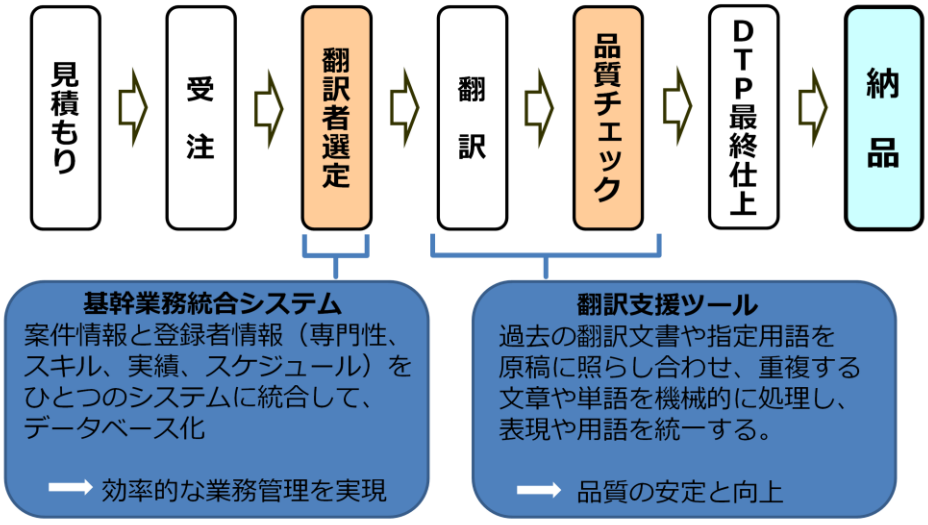
	翻訳事業	通訳事業	派遣事業	コンベンション事業	語学教育事業	その他
翻訳センター	●					
アイ・エス・エス		●	●	●		
アイ・エス・エス・インスティテュート					●	
国際事務センター	●					
外国出願支援サービス						●
パナシア	●					
HC Language Solutions, Inc.	●					
北京東櫻花翻訳有限公司	●					

※2016年4月設立のランゲージワン（株）（多言語コンタクトセンター事業）は持分法適用会社につき、事業セグメントには含まれておりません。

Copyright Honyaku Center Inc. All Rights Reserved.

HONYAKU CENTER New Standards in Translation

2．翻訳事業　ビジネルモデル



Copyright Honyaku Center Inc. All Rights Reserved.

HONYAKU CENTER New Standards in Translation

3．連結業績推移

	2010/3期	2011/3期	2012/3期	2013/3期	2014/3期	2015/3期
売上高（千円）	4,239,171	4,756,866	5,536,856	7,267,836	8,772,038	9,191,266
経常利益（千円）	239,029	270,227	439,768	422,900	359,938	502,660
当期純利益（千円）	105,608	139,722	227,792	220,180	179,002	283,004
資本金（千円）	399,818	588,443	588,443	588,443	588,443	588,443
発行済株式総数（株）（※１）	13,095	16,845	16,845	16,845	1,684,500	1,684,500
純資産額（千円）	1,657,438	2,120,691	2,304,236	2,463,102	2,587,974	2,815,102
総資産額（千円）	2,366,574	3,119,860	3,431,582	3,822,548	4,063,169	4,501,693
自己資本比率（%）	70.0	67.9	67.0	64.3	63.6	62.5
売上高経常利益率（%）	5.6	5.6	7.9	5.8	4.1	5.4
従業員数（人）（※２）	214	225	254	369	392	405
登録者数（人）（※３）	2,993	3,358	3,389	3,813	4,061	4,203

※１　2013年4月1日付で普通株式1株につき100株の株式分割を実施
※２　連結正社員数
※３　翻訳センター単体登録者数（2015年11月より変更）

Copyright Honyaku Center Inc. All Rights Reserved.

HONYAKU CENTER
New Standards in Translation

4．事業別業績推移

単位：百万円

	2010/3期	2011/3期	2012/3期	2013/3期	2014/3期	2015/3期
翻訳事業	4,239	4,756	5,536	5,801	6,155	6,493
特許	1,337	1,331	1,522	1,684	1,713	1,730
医薬	1,488	1,528	1,819	1,902	2,113	2,257
工業・ローカライゼーション	914	1,249	1,548	1,741	1,799	1,911
金融・法務	360	454	433	472	529	594
派遣事業（※）	－	－	－	858	1,348	1,310
通訳事業（※）	－	－	－	267	584	646
語学教育事業（※）	－	－	－	108	208	214
コンベンション事業（※）	－	－	－	－	－	410
その他	137	192	212	232	475	115
売上高合計	4,239	4,756	5,536	7,267	8,772	9,191

※ 2012年9月にISSをグループ化したことによる報告セグメント追加

Copyright Honyaku Center Inc. All Rights Reserved.

HONYAKU CENTER New Standards in Translation

5．損益計算書　推移

単位：百万円、%

	2010/3期	構成比	2011/3期	構成比	2012/3期	構成比	2013/3期	構成比	2014/3期	構成比	2015/3期	構成比
売上高	4,239	100.0	4,756	100.0	5,536	100.0	7,267	100.0	8,722	100.0	9,191	100.0
売上原価	2,301	54.3	2,701	56.8	3,115	56.3	4,057	55.8	4,949	56.4	5,090	55.3
売上総利益	1,937	45.7	2,055	43.2	2,421	43.7	3,210	44.2	3,822	43.5	4,100	44.6
販売費及び一般管理費	1,700	40.1	1,775	37.3	1,981	35.8	2,787	38.4	3,458	39.4	3,595	39.1
営業利益	236	5.6	279	5.9	440	8.0	422	5.8	364	4.1	504	5.4
営業外収益	2	0.0	1	0.0	2	0.0	3	0.0	2	0.0	6	0.0
営業外費用	0	0.0	11	0.2	3	0.1	3	0.0	6	0.0	8	0.0
経常利益	239	5.6	270	5.7	439	7.9	422	5.8	359	4.0	502	5.4
特別損益	△37	-	△5	0.1	0	0.0	0	0.0	1	0.0	35	0.3
税金等調整前当期純利益	202	4.8	264	5.6	439	7.9	422	5.8	358	4.1	538	5.8
当期純利益	105	2.5	139	2.9	227	4.1	220	3.0	179	2.0	283	3.0
販売費及び一般管理費	1,700	100.0	1,775	100.0	1,981	100.0	2,787	100.0	3,458	100.0	3,595	100.0
人件費	1,219	71.7	1,242	70.0	1,419	71.6	1,945	69.7	2,394	69.2	2,622	72.9
人件費以外	481	28.3	533	30.0	562	28.4	842	30.2	1,064	30.7	973	27.1

※1　2011年3月期に加工費の振替方法を変更

Copyright Honyaku Center Inc. All Rights Reserved.

HONYAKU CENTER New Standards in Translation

6．貸借対照表　推移

単位：百万円

	2010/3期	2011/3期	2012/3期	2013/3期	2014/3期	2015/3期
（資産の部）						
流動資産	1,940	2,708	3,058	3,113	3,299	3,856
固定資産	425	411	372	709	763	645
資産合計	**2,366**	**3,119**	**3,431**	**3,822**	**4,063**	**4,501**
（負債の部）						
流動負債	582	858	975	1,181	1,279	1,545
固定負債	127	140	152	178	196	141
負債合計	**709**	**999**	**1,127**	**1,359**	**1,475**	**1,686**
（純資産の部）						
Ⅰ．株主資本	1,662	2,127	2,312	2,456	2,560	2,767
Ⅱ．その他の包括利益累計額	△4	△6	△10	1	27	47
Ⅲ．少数株主持分	–	–	2	4	–	–
純資産合計	**1,657**	**2,120**	**2,304**	**2,463**	**2,587**	**2,815**
負債純資産合計	**2,366**	**3,119**	**3,431**	**3,822**	**4,063**	**4,501**

Copyright Honyaku Center Inc. All Rights Reserved.

7．用語集

ページ	用　語	解　説
p.19	ローカライゼーション	文化や商習慣、環境にあわせて製品や商品を現地化すること。産業翻訳業界では、パソコンのメニューやアイコン等のユーザーインターフェースやユーザー向けマニュアルの翻訳をローカライゼーションと呼んでいる。
p.20	ICT	Information and Communication Technology（譲歩通信技術）の略であり、IT(Information Technology)とほぼ同義の意味を持つ。国際的に「ICT」という表現が定着していることなどから、日本でも近年「ICT」が「IT」に代わる言葉として広まりつつある。
p.33	翻訳者	翻訳センターでは、業務委託契約を締結した社外（フリーランス）の翻訳者を登録している。 当社に登録を希望する社外翻訳者は、専門別・言語別に準備された翻訳トライアルを受験し、合格した方のみを登録する。なお、2015年3月期末でのトライアル合格率は約29%。
p.33	翻訳支援ツール	翻訳者の業務効率化と翻訳の品質向上を支援するために使うソフトウェアのこと。 翻訳支援ツールは、翻訳者によって翻訳された訳文を原文データとセットで翻訳メモリ（トランスレーションメモリ、以下TM）として登録し、同一または類似文章や用語の翻訳の際にTMから引用するシステム。 翻訳自体はあくまでも翻訳者が行うため、機械翻訳ソフト（※）のように原稿が自動的に翻訳されることはない。当社で開発した「HC TraTool」は翻訳支援ツールに属する。 ※機械翻訳ソフトとは 機械を使って自動的に翻訳させるシステム。翻訳者による翻訳は最小限の作業となる。

Copyright Honyaku Center Inc. All Rights Reserved.

HONYAKU CENTER New Standards in Translation